

令和5年度 自己評価表（年度末）

学校法人中村学園

専門学校静岡電子情報カレッジ

※文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

1. 学校の教育目標

<建学の精神>

パイオニア（開拓者）の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献できる人格の形成を重点とする。

<校訓>

技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成

<専門学校静岡電子情報カレッジ 教育方針>

第四次産業革命の技術革新 - 秀でるものを磨き、産業界で必要とされる最先端のニーズに即応できるスペシャリスト（エンジニア、クリエイター、オペレーター）の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

（1）建学の精神、校訓、教育方針について、学生理解の徹底

本学アドミッション・ポリシーのなかで、特に重要なキーワードについては頻繁に学生の理解を確認し、教育課程に反映できるようにする。

（2）文部科学省委託事業、企業団体、企業、地方公共団体との連携

産学+官の連携教育プログラムによる本学ならではの職業人育成で、より質の高い当該分野への人材輩出を続けていく。また外部との連携により、先端技術であるAI、IoT、ビッグデータ、ロボティクスについて、単なる机上の学びに終わらず、実践的に学べる場を学生に提供する。

（3）CAN スカラシップ制度を実践的に運用

学科、学校のリーダーとして産学連携、他学科とのコラボレートなど、先導的な活動をさせる。教員の片腕となれるように責任をもって指導する。研究活動成果は企業にとってメリットとなり得るレベル・内容を目指す。また、その成果を広報面でも活用する。

昨年度までにできた土台を次の世代に引き継がせ、上下の学生間のつながりで成長できる仕組みを作っていく。

（4）福祉・医療・子ども分野との連携

本学園2つの専門学校の特色であるIT・エンターテインメントと福祉・医療・子ども分野との連

携、コラボレートによる活動を企画・実施。学生たちが視野を大きく広められるとともに、自ら学ぶ知識・技術、技能が、どのように世の中の役に立つのか（Society 5.0 の具現化）を実践的に学ぶことができる。

（５）全学生が、自ら気持ちの良い挨拶ができるように、今一度全人教育の基本に戻り学生指導を行う。

（６）退学防止策の検討・実施

退学率防止策の検討・実施を引き続き行っていく。本校が実施するカリキュラムや学校イベント等の内容について、なぜこの科目を学ぶ必要があるのか、学校イベントでの狙いは何かなどをしっかり説明し、必要性を認識させる。学生が自ら主体的に学ぶように考えさせる施策も重要であり、具体策を検討する。

（７）リスクリング機会の提供

IT ゲーム＆ロボットシステム学科も職業実践専門課程に認定され、厚生労働省の実施する教育訓練給付制度対象学科となった。リスクリングの提供をするとともに、制度の紹介等を本校でも行っていく。

（８）評価基準の明文化

3.評価項目の達成及び取組状況

【IT ゲーム＆ロボットシステム学科】

・卒業研究において、三島市や放課後デイサービスなどの学外以外の方々と一緒にコンテンツを制作することができ、そのコンテンツに対して評価をいただくことができた。実践的に学べる場を継続して学生に提供していけるように来年度にも繋げていく。

・CAN スカラシップ学生が中心となり、地域イベントでの電子工作ブースの実施や、福祉の学生と一緒にボランティア活動を行ったり、福祉の学生をお客様と見立てて HP 制作を行ったり、福祉分野においてアイデアを貰ったりと、先導的な活動を行うことができた。

・面談を行ったり、学生毎に得意なコミュニケーションを取る方法を行ったりなど、学生に寄り添った担任運営を行った。残念ながら今年度は精神疾患、就職希望を理由で二人退学をしたが、効果はあると感じるので引き続き学生に寄り添った担任運営を行っていく。

・教務主体で、成績評価を記述するフォーマットを修正し、評価を付ける段階でも基準を再度明確化させ、それに沿って評価させるよう徹底させた。

・非 18 歳人口以外の教育の仕組みづくりが残念ながら進んでいない。

【音響&映像メディアクリエイト学科】

・卒業研究では、学生が企画運営を行う音楽ライブイベントの開催や、ディスカバリーパーク焼津様と連携した CM 制作など、企業や民間の方と連携した取り組みを行うことができた。来年度も継続実施できるように継承していきたい。

・CAN スカラシップとしては、前期に SBS や他の大学、専門学校と連携したイベントに企画から参加することができた。しかし、後期には目立った活動が見られなかったため、年間通して活動できるように指導していく必要があると考えている。

- ・福祉医療系の学科とのコラボレーションとして、動画制作等に取り組みことができた。取り組みの数としては多くないため、何ができるのか、学生のニーズに合わせて検討を続けていきたい。
- ・今年度は退学者数が増えてしまった。モチベーションの低下や学生のやりたいことと、社会に出てから必要なことの差異が一つの要因だと考えている。そのため、学生の考えていることをいち早く把握し、必要に応じて指導をしていくことで改善を図っていきたい。加えて、精神的な面や体調面で出席率が低下していく学生についても方策を考えていく必要があると考えている。
- ・昨年度よりもデザイン系での成績評価基準が明確化できたように感じている。まだ学生が目指すべき基準を提示するという所まで行き着いていないため、来年度も非常勤講師を含めしっかりとした基準を制定していきたい。
- ・非 18 歳人口への教育(リスキリング、リカレント)については具体的な方策、仕組みができていないのが事実。分野として社会的なニーズ(動画コンテンツや生成 AI など)に対して何ができるかを深く検討していく必要があると考えている。

評価方法は、以下の通りである。

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3
①課題 ○入学前指導（ステップアップレッスン）や年度当初におけるアドミッション・ポリシーの徹底、理解の指導が年間通じて必要。 ○企業、企業団体、各種団体との連携増加。 ○Web、SNS 等による教育内容の見える化、情報発信。 ○教育課程編成委員会でのご意見のカリキュラムやイベントへの反映。 ○今年度調査を行ったが、県内の IT 業界のニーズが不透明に終わった。	
②今後の改善方策	

<p>○アドミッション・ポリシーの理解を日々促す。毎朝の SHR において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。</p> <p>○教育課程編成委員会のご意見をもとに、年度末までに具体策を策定・実施していく。その結果を年度末の教育課程編成委員会で報告する。</p> <p>○県内の IT 業界のニーズを再調査する必要がある。</p>
<p>③特記事項</p> <p>○年 2 回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の実施。学校関係者評価の公表（専修学校としての義務）。</p> <p>○月刊の機関紙・CAN ジャーナルを通じて、学校の様子を各家庭にも伝えている。</p> <p>○シラバス、評価基準は公式ウェブサイトに掲載済（「高等教育の修学支援新制度」への対応）。</p>

(2) 学校運営

評価項目	評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
②今後の改善方策	
○DX 化することで簡略化できる事務作業を把握し、随時、システム化を目指す。	

(3) 教育活動

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4

・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
<p>①課題</p> <p>○実践的な職業教育が年ごとに学生のレベルの差異もあり安定しない。</p> <p>○基礎学力、ヒューマンスキルが入学時に低いのが目立つ。</p> <p>○授業評価の実施・評価体制が不十分な面がある。</p> <p>○教員の指導力向上のための研修受講が主に各教員の裁量に任されており、組織的な課題解決のための研修としては不十分な面がある。</p>	
<p>②今後の改善方策</p> <p>○インターンシップ企業・業界団体の連携を深め、学生のレベルも相談し進めていく。また、2年生と共に1年生も同じ活動に参加させる。</p> <p>○企業、企業団体、各種団体と連携をしたロールプレイを多用し、実務に近い条件を経験できるようにする。</p> <p>○入学前課題などを再考し、基礎学力やヒューマンスキルをある程度上げた状態で、テクニカルスキルの学習を進めていく。</p> <p>○福祉医療の教員が行っているコミュニケーション概論のような授業を電子でも行う計画を立てる。</p> <p>○作品による評価の採点記述がわかりにくいので、学生がわかるような評価基準を文字などで準備する。また、教員・学生・講師の方々にも学生の手引きを再度精読してもらい、評価や判定基準の周知徹底を図る。</p> <p>○総合的な学力や気持ちの変化を早めに把握できるようにする。個々の面談を定期的に行う。相談しやすい環境整備を行う。</p>	

<p>○教員の指導力向上に関する研修は、いくつかのテーマから現場のニーズが大きいテーマを選び出し、カリキュラム設計から運営までを、福祉医療と共に運営管理する体制を作る。</p>
<p>③特記事項</p> <p>○福祉施設、地方公共団体等をターゲットに、Web サイト構築を完遂した。</p> <p>○福祉系の学生とのコラボにより、障がい者向けゲーム開発を完遂した。情報収集、情報交換のため、視覚特別支援学校を訪問した。</p> <p>○第一ひかり幼稚園及び子ども心理学科との連携で、幼稚園児向け ICT 体験教室を行った（昨年度、1 度開催）。</p> <p>○ライブハウス ROXY にて、学生主体のライブイベントを実施した。</p> <p>○ディスカバリーパークのCMを制作中。</p> <p>○聴覚障害者協会の依頼で、旧優生保護法の認知用の映像を制作した。</p>

(4) 学修成果

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	3
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
<p>① 課題</p> <p>○就職活動をやらない学生や遅滞する学生がある一定層存在する。</p> <p>○卒業後の進路変更やキャリアアップの情報の入り方に偏りがあり、一定の卒業生の動きしか把握できていない。</p> <p>○1年次の退学率が高い。</p>	
<p>②今後の改善方策</p> <p>○個別に面談を行ったり、企業を見学させたりなど、ギャップを少しでも減らしていく。また、卒業生が活躍している企業とのマッチングを増やせるような機会を作り、卒業生と共に就職活動を行わせる。</p> <p>○国家資格の資格取得者を増やすため、次のような取り組みをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前よりやる気のある入学者に対して早々に問題集や過去問題を実施する。 ・実技の授業でも国家資格の問題にも活用できるようなカリキュラムを組み、座学が多くならないように学習ができる仕組みを作る。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・CAN スカラシップ生より始まった勉強会を利用し、他学生もこの勉強会を利用する。 ○卒業後の進路変更やキャリアアップの情報収集ができるよう、SNS や同窓会のホームページを活用していく。 ○退学率の低下のために次のような取り組みをしていく。 ・本校が実施するカリキュラムや学校イベント等の内容について、なぜこの科目を学ぶ必要があるのか、学校イベントでの狙いは何かなどをしっかり説明し、必要性を認識させる。 ・自分の目標との差異を感じさせないようにする。 ・縦の関係、他学科との関係づくりをさせることで、クラス外のコミュニティを構築させる。 ・面談を定期的に行い学生が抱える課題や悩みを早期発見・早期対応する。 ・教員が相談可能な日時を定期的を設定しておき、相談したいときにできる環境を用意する。 ・対応が必要な学生については、家庭・保護者との連携を密にする。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業生を囲む会、オープンキャンパスなどに招く卒業生の近況把握や選抜を学科全体で行っている。 ○情報処理安全確保支援士試験 1 名、応用情報技術者試験 1 名、基本情報技術者試験 1 名、IT パスポート試験 5 名、映像音響処理技術者資格認定試験 11 名

(5) 学生支援

評 価 項 目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	3
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
① 課題	

<ul style="list-style-type: none"> ○担任レベルで対応できない相談の場合の対応方法。 ○卒業生への支援体制を整備してはいるが活用される場面が少ない。学校として卒業生との繋がりも大切なため、活用されるように見直していく。 ○リカレント、リスキリング教育への取組がほぼできていない。 ○中学校・高校とのキャリア教育の連携が一部に留まっている。
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担任以外のカウンセラーの検討。 ○卒業生とのつながりが、卒業時の担任の個人 SNS だけとなってしまっている。学校が管理できるような外部システムを取り入れられないか検討する。 ○産学連携先や就職先、教育課程編成委員の意見を中心に、人材養成に対するニーズを引き出し、カリキュラムに反映。企業や求職者にも提供できるように検討する。 ○毎年度、定期的に連携できる中学校・高校を広げていく。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業生に対して定期的に（年2回程度）連絡し、卒業後の状況を情報収集している。 ○島田商業高校との連携が定期的にできる関係性を構築できた。この事例を活かして他校でも行えるよう、輪を広げていく。 ○城南静岡高校とも昨年度から映像制作・映像編集に関する講座を本学で開催するなど、新たな関係性が構築できつつある。

(6) 教育環境

評価項目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4
<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生人数が例年より増えたためネットワークの整備が必要 ○海外研修の実施が難しい状態が続いている。 	
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○両館のネットワークの整備を行う。 ○海外研修が難しい場合の代替案を考える上での目的等を明確にする。 	
<p>② 特記事項</p>	

○NTT 西日本の協力で、学内 Wi-Fi 状況調査を実施した。ネットワーク環境改善の提案を頂く予定。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4
<p>① 課題</p> <p>○在校生、卒業生が制作したコンテンツ（動画・画像・アプリケーション）を閲覧できる環境整備。</p> <p>○スペシャルオープンキャンパスで、在校生、卒業生の若手エンジニア、長年業界で活躍するスペシャリストによる、段階的な職業イメージの強化と本学出願までの誘導。その後の入学前教育へつなげ、入学前からのイメージの差異が生まれないような流れを継続させる。</p> <p>○HPがトレンドにあっていない。</p> <p>○入学者数の減少。</p>	
<p>②今後の改善方策</p> <p>○YouTube や Instagram などに在校生、卒業生が制作したコンテンツをアップロードしていく。アプリケーションを利用してもらえる環境を検討する。</p> <p>○学科内のみではなく、教職員全員が各学科の特長をよく理解し、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座、口コミで分かり易くアピールできるようにする。</p> <p>○オープンキャンパスの体験では、次のことに意識して計画から行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業観、仕事の具体的なイメージを持たせる ・実際の授業に近い体験を実施する ・専門学校生活への不安を減らす ・大学との差異、本校の良さを伝える ・来校者に発言の機会を与え、ほかの参加者ともかかわりを持たせ楽しんでもらう 	
<p>③特記事項</p> <p>○学生がサークル活動を通して主体的に学生や卒業生の情報を SNS で公開する取り組みが成果を挙げている。ここでも IT、エンターテインメントと福祉・医療・子どものコラボレートが実現できている。SNS を通じて、日ごろから授業の魅力、学校行事、学科独自のイベント等を公開している。</p>	

<p>○両学科とも、厚生労働省の実施する教育訓練給付制度対象学科となった（音響&映像メディアクリエイト学科は継続認定）。社会人の再チャレンジの選択肢の1つとして体制を整えている。</p> <p>○今年度の夏のオープンキャンパスでは、ライブハウス ROXY で体験授業を実施。高校生のうちから職業観を身につけ、魅力を実体験できる環境を提供できた。</p>
--

(8) 財務

評価項目	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4
①課題	
○個人情報保護法の理解	
②今後の改善方策	
○職員会議、学科・部署会議で法令遵守の確認を常時行う。	
③特記事項	
○個人情報の取り扱いについて、入学当初に確認書の提出を義務付けている。	
○個人情報に係る諸データは全てパスワード保護している。	
○年度当初に年間の重点目標を設定。半年ごとに学科・部署で点検を行い、次期への課題・改善策をまとめ、反映させている。年2回の学校関係者評価委員会で学校関係者から評価を頂き、まとめ、公開している。	
○高等教育の修学支援新制度認定を受け、成績評価基準、シラバス等について、最新の内容のものをオフィシャルウェブサイトで公開している。	
○職業実践専門課程認定学科については、適切な時期に別紙様式4を更新、オフィシャルウェブサイトで公開している。	

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
①課題 ○地域貢献を一層充実させる。	
②今後の改善方策 ○本学の長をアピールできる公開講座を学園祭以外にも企画し、マスコミにも働きかけ、広報活動にも活かしていく。	
③特記事項 ○学校の施設を活用した高校生 ICT カンファレンス（今年度は6校、25名の参加）の実施や、検定試験会場としての実施などは定期的に行っている。 ○学生により創設された「クリエイティブ部」では、電子情報×福祉医療のコラボレイトを含め、活発に活動しており、福祉の学生と一緒にボランティア活動を行う流れができ始めている。 ○県からの委託事業（離職者訓練、長期人材育成）を受け入れている。 ○静岡市子どもクリエイティブタウン「ま・あ・る」や、SBS 主催による人宿学園祭（本学、静岡大学、常葉大学、鈴木学園等が参画）での子供向け電子工作ブースを展開するなどの取り組みができています。	

(11) 国際交流

評価項目	評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
①課題 ○コロナ過が落ち着き、留学生からの連絡が増えてきているが、入学希望者、就職先がなかなか確保できていない。 ○学習支援、生活指導等の課題整理は引き続き途上である。 ○新型コロナウイルス禍で海外への研修修学旅行が行えない。	

②今後の改善方策

- 留学生の就職先・進路の確保。日本語能力の向上。
- 留学生支援の体制を整備し、本学が求める条件をクリア可能な留学生の受け入れを行っていく。
- 海外研修修学旅行の代替となる国内での研修を企画・実施する。

③特記事項

- 留学生に対する日本語能力試験への対応をサポートしている。

以 上